

# We are friends.

氏名：大久保 智巳

学校名：つくばみらい市立伊奈中学校

担当教科：外国語（英語）

実践教科：学活・道徳・総合・英語

時間数：8 時間

対象学年：2 年生

人数：31 名

## 【実施概要】

<p>【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：タンザニアの友達を作る！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とタンザニアの違いや共通点を見つけながら、それぞれの国の良さに気付き、興味をもつ。</li> <li>・先入観で物事を見ることなく、タンザニア人も私たちと「同じ」ということを理解する。</li> </ul>			
<p>【2】単元の評価基準例</p>	(ア) 関心・意欲・態度		
	(イ) 思考・判断・表現	○	
	(ウ) 技能		
	(エ) 知識・理解		
<p>【3】単元設定の理由 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>タンザニアについての事前調査では、31 人全員が「貧しい、かわいそう」などと答えており、アフリカという国は遠い国、どこに位置しているのか分からないとしている生徒が多くいることが分かった。そこで、実際にタンザニアで働いている人の動画を見たり、Skype でタンザニアの生徒と交流をすることでタンザニアに対する先入観をなくして考えてさせるようにする。31 人の生徒は、外国の人と Skype で交流するという経験がなく、Skype を行うまでに様々な事を学び、意欲をもたせてタンザニアの生徒と交流できるようにしていきたい。</p>		
<p>【4】展開計画（全 8 時間）</p>			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	伊奈中学校 2－1 で「世界がもし 100 人の村だったら」を体験しよう。	「世界がもし 100 人の村だったら」を生徒と保護者を含めた 50 人でシミュレーションを行う。次が読めないことで起きる問題や世界で話されている言語などを確認する。	パワーポイント 食塩水、砂糖水、お水、 1 人 1 役カード ※資料 1
2	I am going to go to Tanzania this summer vacation.	タンザニアの子ども達に渡すうちわに漢字やイラストを書く。 タンザニアの国についてのイメージは何かなど事前調査を行う。	うちわ ※資料 2
3	タンザニアってどんな所？	タンザニアについての○×クイズを行う。	パワーポイント ワークシート ※資料 3

4	パズルワークでタンザニアの パワーを感じよう！	タンザニアで撮影した写真を使用して、パズルワークを行う。その中から印象に残った写真を選び、発表する。	パズルワークシート, 写真 30 枚× 8 セット ティンガ、カンガ ※資料 4
5	タンザニアで働く日本人	JICA の隊員として働く人々のメッセージを見て、どこでどんな仕事をしているのか知る。	パワーポイント 隊員の動画 ※資料 5
6	タンザニアと日本の学校の違い	タンザニアの教育制度・制服・教室風景などの写真を見ながら、違いや共通点を見つける。	パワーポイント ワークシート タンザニアで購入した 教科書 ※資料 6
7	大切なものって何？ 水・電気・ガス？	都市と農村を比較する。 タンザニアについてのイメージを事前と事後で比較する。 水・電気・ガスのうち、自分にとって 1 番必要なものは何か考える。	パワーポイント ワークシート ※資料 7
8 本時	タンザニアの生徒と Skype で 交流しよう！ Skype を通して、タンザニア の友達と英語で対話を行う。	1 (タンザニア) 対 2 (日本) で、2 分間で自分の夢や好きなことなどを聞き合う。 タンザニアの学校を紹介してもらい、歌を歌い合う交流を行う。	PC プロジェクター ワークシート

【5】本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入	タンザニアの生徒と Skype を通して英語で交流する。 (2 人でペアになり、1 組 2 分間交流する。)	生徒中心で英語で交流できるようにする。	PC
展開	タンザニアの生徒に学校を案内してもらおう。		
まとめ	お互いに歌を歌い合う。 (タンザニアの生徒は、伝統的な歌と校歌 日本は校歌を歌う。)		

【授業実践の様子】





#### 【6】本時の振り返り

1ペア2分間というのは、短い時間だったが、生徒達にとっては充実した時間だったようだ。授業後、多くの生徒が「楽しかった。もっと英語力を上げてまた話したい」と話していた。

#### 【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

第二言語習得者同士の交流だったが、お互いにコミュニケーションを図ろうとしていた。最後にお互いの校歌を歌い合い、一つになれたような感じだった。また、タンザニアは、遠い国じゃない、タンザニアは身近な国であると感じている様子だった。

#### 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

～タンザニアの生徒の事前と事後の感想～（長尾さんを通して・・・）

Skype 前：人気のスポーツが野球、みんなメガネをかけている、シャイ、教室が綺麗

Skype 後：シャイだった、規律が素晴らしい（2人ずつ順番にPC教室に入ってくることは考えられない）、みんな賢そうだった、服や身だしなみが綺麗

#### 【途上国・異文化への意識の変容について】

（授業前）

授業の発言より

- ・ 貧しい
- ・ 貧富の差がある

（授業後）ワークシートより

・ 多少、物はないかもしれないけど、あまり日本との差はないように感じた。いろいろな物を有効に活用して、物を大切に使っていた。学校の様子を見て、日本と変わらず、みんな楽しそうで笑顔だった。最初はもっと貧しい国だと思っていたが、学習して、あまり差はなく、第一印象だけで決めてはいけなかったと思った。いろいろな国へ行ってみたいと思った。

・ タンザニアの最初のイメージはあまりいいものではなかったけど、今までの授業を振り返ってみると、いろんな人が楽しそうに生活をしているので、いい所なんだと思った。自分の知らないタンザニアのことがたくさん知れたので、将来はタンザニアなど海外のいろいろな国に行ってみたい。

・ 全ての授業を通してタンザニアでの情報や暮らしを知ることができた。主に農村部での暮らしでお金や物がなくてもみんな活発で楽しく過ごしているということを知って驚いた。タンザニアでもまだ問題点があり、その解決のため日本人が活躍しているのはすごいと思った。これらの話を聞いて、アフリカへ一度は行ってみたいと思った。

・ 自分の環境が全てじゃないことが改めて分かって、もっと外の世界を知りたいと思った。

- ・自分が想像していたことと違うことが多く、驚いた。今の生活に慣れてしまったから、タンザニアの生活は合わないと思ったが、タンザニアの人たちからしたら当たり前なのだと思う。共通点を多く見つけられておもしろいと思った。実際に行ってみたいと思った。
- ・日本の当たり前は、タンザニアの人にとっては豪華でタンザニアの当たり前は日本にとってすぐまず悪いものだったりすることがその現状に驚いた。また、タンザニアでは、こちらから見たら貧しそうでも、楽しくやっているように見えた。でも、学校に行けない子どもがまだいるのは悲しくなった。
- ・タンザニアと日本では、環境が違ったり、ある物なども違うけれど、自分が思っていたよりも普通に楽しそうにみんな過ごしているし、タンザニアの人は工夫して生活しているんだなと思いました。

【自己評価】

1. 苦勞した点	苦勞した点は特にありませんが、タンザニアと Skype で交流できるかどうかは当日までどうなるか不安でした。現地で雨が降ると、インターネット回線がつながりにくいため、交流できない可能性がありました。でも当日は晴天で、きれいな空も見ることができてよかったです。
2. 改善点	特にありません。
3. 成果が出た点	動画や写真などを多く見せたことで、自分自身で様々な物の見方・考え方ができたと思う。実際にオンタイムでタンザニアの生徒と対話を行ったことで、臨場感を味わいながら交流を行うことができた。
4. 備考（授業者による自由記述）	ネット状況によって Skype で交流ができるかという心配があったが、当日は成功して良かった。

【資料 1】 100 人村ワークショップ



【資料 2】 授業でタンザニアの生徒に渡すうちわを作りました



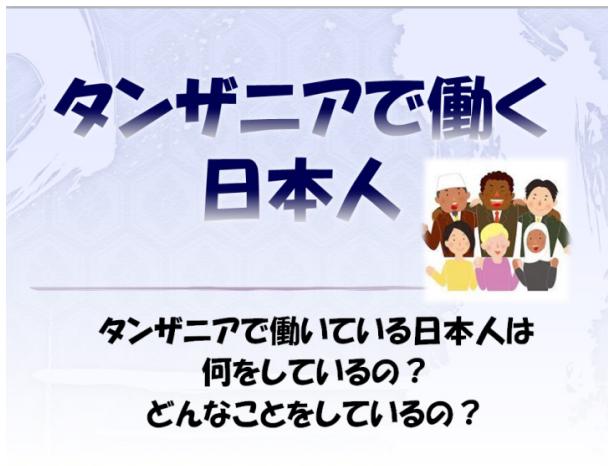
【資料 3】 タンザニア〇×クイズ



【資料 4】 パズルワークの様子



【資料 5-1】 タンザニアで働く日本人



【資料 5-2】



【資料 5-3】



【資料 5-4】



【資料 6-1】 タンザニアの学校を知ろう！



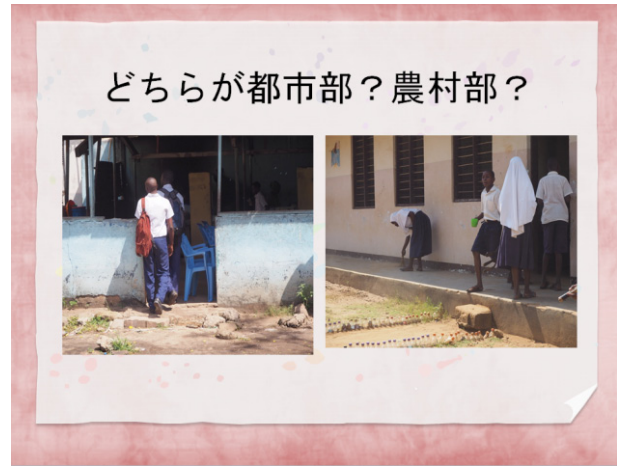
【資料 6-2】



【資料 6-3】



【資料 7-1】 都市部と農村部の違い



【資料 7-2】



【資料 7-3】

